

多様化が元気の秘密

キーワードは“ニューバリュー”と“グローバル”

有功社シトー貿易株式会社
代表取締役 チーフディレクター
谷口 有三氏



有功社シトー貿易（東京都北区、☎03-3949-9933）の谷口有三チーフディレクターは2012年、「例年にないほど海外を見て歩いた」という。ドイツ・シトーシステム社をはじめとする海外20カ国の企業とパートナーシップを結び、海外ネットワークの広さと情報力には定評がある谷口氏が「日本市場をより良く知るために、世界の動きを肌で感じたい」との思いで意欲的に動いた。

「EU経済が破綻の危機に瀕している中、その中でも特に悪いと言われるスペインにも、元気がある紙器・段ボール企業はあった。元気な企業に共通するのは多様化への取り組みだと思う」と谷口氏は分析する。

EU一番の経済大国で工業分野に強みを持ち、人件費の安い隣国との競争に晒されているなど日本との共通点が多いドイツでは近年、“回帰現象”が起きているという。

「ドイツでも、コストが安い東欧諸国にユーザーが生産拠点を移転して産業の空洞化現象が起っていた。マスコミはあまり報じていないが、ドイツではこのところ、製造業の国内回帰の動きが進んでいる」

その鍵は従来の延長線ではない、大胆なり・エンジニアリングだという。

「人件費が東欧の2倍なら、半分の時間で作ればコスト競争力が生まれる。これに長年培ってきた技術力と付加価値でドイツのものづくりは復権しつつある。これに比べると日本は市場を取り戻す努力をしていない」と谷口氏は話す。

西ヨーロッパでは近年、美粧段ボールの需要が伸びている。大規模店舗では陳列に要する人件費を軽減するため、シェルフレディパッケージングに代表される新しい包装形態が普及している。段ボールにフレキシソの多色印刷をダイレクトで施し、美粧性を追求する例もみられる。

「外装と内装の事業の垣根がなくなり、段ボール会社が印刷紙器やPOPに進出している。受注産業から提案型への転換を進めている。多様化で生き残りを図っているのが特徴」

こうした技術の一端を紹介する取り組みとして、昨年12月に開催されたISOWAのオープンハウスにスペイン・セラ機械製造の製函機周辺の省力化システムを展示した。今後も魅力ある新技術を体感できる機会を積極的に設けていく。

「閉塞感があるためか、海外のトレンドに対する日本のユーザーの関心は高くなっている。海外で元気な会社は『資材を売る』のではなく、『価値を提供する』という発想でビジネスを展開している。“ニューバリュー”と“グローバル”をキーワードに、日本のユーザーに的確な情報を提供していきたい」と谷口氏は意欲を示す。

「美しい箱作りのお手伝い」「明日はもっと楽しい」が同社の経営理念。2013年はさらに元気になる情報発信が期待できそうだ。20g